

許すな！「戦争する国」づくり、労働者使い捨て社会
つくりあげよう！「強く、大きな道労連」を



道労連NEWS

発行日：2017.7.20

発行：北海道労働組合総連合 〒003-0805 札幌市白石区菊水5条1丁目4-5 Tel：011-815-8181

「非正規に労働組合を」

非正規ではたらく仲間の全道集会2017

全道から100人参加 元気出た！大成功

道労連は15日、非正規ではたらく仲間の全道集会を札幌市内（かでの2.7）で開催しました。11単産・6地域からと学生や一般参加者12人を含めて100人を超える参加があり、「非正規労働者に労働組合を」というテーマで交流しました。集会では、非正規労働者の雇用の安定、処遇の改善を図るには、非正規労働者の「当事者が労働組合で声を上げること」以外にないことが多くの発言者から強調されました。また、集会後に街頭での「最賃上げろデモ」を軽快なサウンドに合わせて元気よく行いました。

無期転換、最賃引上げで非正規組織化を

集会では、北海学園大学教授の川村雅則さんが「なぜいま無期転換と最賃引き上げが重要なのか」をテーマに基調講演しました。川村教授は、そもそも恒常的に必要な仕事を「有期雇用」で賄うという不条理こそ正



大通りのピアガーデン前ではアルバイト店員が「最賃あげろ！」コールに「そうだ！」の声、高校生4人が飛び入り参加した「最賃上げろデモ！」（2017.7.15 札幌）

されなければいけないとし、非正規雇用の問題点として「①有期で不安定な雇用、②妥当性を著しく欠く低賃金。③集团的労使関係からの排除」をあげ、無期雇用転換の確実な履行

と労働組合に迎え入れることが重要と強調しました。そして、そのためには、労働組合が非正規の迎え入れを具体化する「労働組合の再生」が必要と問題提起しました。



100人を超え会場が満席「非正規ではたらく仲間の全道集会2017」。「非正規労働者に労働組合を」テーマに活発な議論が行われた。(2017.7.15 までの2.7)

いま最も非正規が労働組合を必要としている

パネルディスカッション「労働組合とは？」

非正規全道集会の後半、黒澤幸一道労連議長がコーディネーターを務めパネルディスカッションが行われました。パネラーを努めた、小原里美非正規労組連絡会代表幹事は、道労連がすすめる無期雇用転換プロジェクトについて「労働組合に入って、無期雇用になろうと広げ、非正規労働者の権利を勝ち取りたい。すでに、札幌市児童会館には新しい労働組合が誕生し、140人の雇用を守った。」としました。木村憲一道国公事務局長は、公務職場の非常勤職員の増大について「ハローワークは非常勤職員が6割。無期転換など労契法は対象外。継

続雇用と均等待遇の実現が大きな課題。」としました。また、ハローワークに勤める非常勤職員は「組合に結集して交渉で改善させるしかない」と非正規の組織化をすすめている」としました。三上友衛道労連書記次長は、道労連の最低生計費と最低賃金引き上げの意義について「札幌で若者の一人暮らしには、月22万円は必要が最低生計費調査の結果。全国一律の最賃の実現、大幅引き上げへ、たたかう労

働者が余りに少なすぎる」と指摘し、労働組合の見える化で、組織化することが重要と強調しました。岩崎唯さつぼろ青年ユニオン執行委員長は、「若者の相談も正職が多い。非正規に労働組合は見えていないのかも。労基法より慣習が優先される。最賃に張り着くコンビニの賃上げが社会的底上げにつながると考え。組織化を取り組んでいる」としました。

会場からは、あるラーメン屋さんの店主は、「最賃を引き上げても支払い能力がない」と言っていたが、どうしたら最賃を引き上げられるかとなりました。パネラーは、大企業の巨大化する「内部留保をはき出させる世論」と「労働組合の拡大強化」が必要と答えました。非正規労働者に労働組合を届けたいが、「みなさんにとって、労働組合とは？」との問いに会場から、労働組合は「空気」。日常意識しないが「なくてはならないもの。」との発言や「武器」「防御」「仲間」などの声上がり、活発な討論になりました。



WELCOME CONCERT

集会最初。マンドリンのプロ演奏活動の側ら勤医労札幌病院でパート看護師として働く田中昌江さんが「アメージンググレース」など4曲を披露。心に染みいる演奏で、集会に花を添えていただきました。